



DevPartner 11.0.0

A large, decorative graphic consisting of multiple overlapping, wavy blue lines that create a sense of motion and depth. The lines are in various shades of blue, from dark to light, and are set against a light blue gradient background.

インストールガイド

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa CA 92626

Copyright © Micro Focus 2001-2012. All rights reserved.

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

目次

はじめに	5
対象読者	5
DevPartner Studioの新機能	5
リリース10.0.0の新機能	5
リリース9.1.0の新機能	7
Windows 7、Windows Server 2008 R2、Internet Explorer 8 サポート	7
コードレビュー バッチ モードでのプロジェクト選択	7
表記方法	9
補足情報	9
第1章・DevPartner Studio インストール	11
システム要件	11
サポートされている環境	12
Microsoft .NET Framework	13
Micro Focus 製品ライセンスの取得	13
DevPartner Studio のライセンスについて	14
リモード データ収集用のインストールとライセンス	15
DevPartner Studio ファイアウォール アラームのトリガー	15
インストールされる機能	15
DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite	15
Visual Studio の side-by-side 実行	16
インストール	16
DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング	17
DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行	18
移行の準備	18
ルール データベースの移行	19
プリファレンス データベースの移行	19
第2章・インストールの保守	21
保守モードにアクセスする	21
インストールを変更する	21
インストールを修復する	22
インストールを削除する	22
索引	23

はじめに

このマニュアルでは Micro Focus® DevPartner Studio® ソフトウェアのインストール方法を説明します。

対象読者

このマニュアルは、DevPartner Studio をインストールするシングル ユーザーおよびコンカレント環境で使用するユーザーを対象としています。

このマニュアルでは、使用方法は説明していません。使用方法については、オンライン ヘルプや、製品に付属のユーザーズ ガイドを参照してください。

このマニュアルでは、ユーザーが Microsoft Windows インターフェイスおよび Windows ソフトウェアのインストールに精通していることを前提としています。この前提にあてはまらない場合は、このマニュアルの前に Microsoft Windows のマニュアルをよく読んでください。

DevPartner Studio の新機能

DevPartner Studio のこのリリースは、以下の機能を備えています。

リリース **10.1.0** の新機能

Feature Licensing

DevPartner Studio 10.1.0 では DevPartner Studio 機能セットの一部のみ使用できます。Feature licensing により、アプリケーション テストとプログラマーの生産性における的確なニーズにしたがって、DevPartner 製品をより正確に一致させ、ライセンスを付与できます。ライセンス付与された機能セットのアップグレードは、Micro Focus Product Sales に連絡して機能を追加で有効にするぐらい簡単です。Feature licensing により、以下の機能セットのライセンスを付与できます。

DevPartner Studio Professional Edition : エラー検出、コード レビュー、パフォーマンス分析、カバレッジ分析、パフォーマンス エキスパート、メモリ分析、および System Comparison など DevPartner Studio 製品スイート全体が含まれています。

DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite : エラー検出、パフォーマンス分析、カバレッジ分析、および System Comparison が含まれています。生産性を向上させ、パワフルなハイパフォーマンス Windows アプリケーションを迅速にビルドします。

BoundsChecker スタンドアロンの場合 : エラー検出が含まれています。特にアンマネージド リューションにかつてないほど詳細なエラー分析を行います。

Runtime Analysis : パフォーマンス分析、カバレッジ分析、パフォーマンス エキスパート、およびメモリ分析が含まれています。ソース コードを収集して分析してテストされていないコードを効率的に検出し、アプリケーション パフォーマンスとリソースを最適な状態で利用します。

Performance Profiler : パフォーマンス分析とパフォーマンス エキスパートが含まれています。詳細なマネージ コード アプリケーション プロファイリングを行ってアプリケーションを微調整し、非常に検出されにくい実行時の問題でも見つけ、分析します。

リリース10.0.0の新機能

Microsoft Visual Studio 2010 サポート

DevPartner Studio 10.0.0は、Microsoft Visual Studio 2010を完全にサポートしています。これには、Microsoft Visual Studioを使用して開発されたアプリケーション分析の完全サポートや、Visual Studio 2008 IDEへの完全統合が含まれます。分析してエラーを検出し、新しいVisual Studio 2010プロジェクト タイプで静的コード レビューを行います。

Microsoft Team Foundation Server 10.0 作業項目の送信

DevPartner Studio 10.0では、追加の[作業項目]タイプのMicrosoft Team Foundation Server 10.0への送信がサポートされています。DevPartner Studio 10.0では、[問題]作業項目タイプだけでなく、[バグ]および[検出]作業項目タイプについて、[作業項目]フォームに選択したセッション データが自動的に挿入されます。[作業項目]は、Microsoft Team Foundation Server 10.0で使用され、アクティブなプロジェクトで[作業項目]タイプがサポートされている場合に、Visual Studio 2010および2008の両方から送信できます。

MSBuild サポート

DevPartner Studio 10.0では、Visual Studio 2010であらゆるDevPartnerプロジェクトをビルドするため、MSBuildがサポートされています。MSBuildは、[ビルド]メニューからソリューションをビルドする場合は必ず自動的に起動されます。

.NET 4.0/ 共通言語ランタイム (CLR) 4.0 サポート

DevPartner Studio 10.0.0では、.NET 4.0の共通言語ランタイムであるCLR 4.0を活用するすべてのアプリケーションがテストおよび分析されます。CLR 4.0 サポートには、Visual Studio 2010でDevPartnerがサポートしているすべてのプロジェクト タイプが含まれます。

Micro Focus Visual COBOL for .NET プロジェクトのトライアル サポート

DevPartner Studioにより、Micro Focus Visual COBOL for .NETプロジェクトタイプを分析できるようになりました。これには、マネージCOBOL for .NETプロジェクトのメモリ分析、パフォーマンス分析、カバレッジ分析が含まれます。標準的ディスクI/O、ネットワークおよび他のMicrosoft標準.NETコールが使用されているCOBOL for .NETプロジェクトの徹底的なパフォーマンス分析を行うことができます。Micro Focus Visual COBOLはVisual Studioと同じコンピュータにインストールし、Micro Focus Visual COBOL for .NETプロジェクトタイプを分析できるようにする必要があります。

このリリースでは、サポートは試験的な利用に限定されており、コード レビューまたはネイティブCOBOLサポートは提供されていません。この機能に対するフィードバックを提供するDevPartnerのお客様は、Micro Focus SupportLine カスタマケア Web サイトから身分証明を行う必要があります。

拡張パフォーマンス タイミング

DevPartner Studio パフォーマンス分析 (PA) は、パフォーマンス メトリクスをキャプチャすると同時に、そのインストールメンテーション モデルで使用されるオーバーヘッドをより正確に追跡および測定するよう機能拡張されました。これらの拡張機能は、動作しながらターゲット アプリケーションに対して PA パフォーマンス オーバーヘッドを動的に計算します。これにより、クロック (CPU) 時間と比較した場合に、より正確なアプリケーション パフォーマンス測定が可能になります。

ハードウェアおよびソフトウェアの割り込みアーキテクチャは、CPU 時間と比較した場合に、パフォーマンス タイミングに影響を与え、わずかな相違を生み出す場合があります。ハードウェアおよびソフトウェアの割り込みにより、ターゲット スレッドのタイミングに含まれている、ターゲット アプリケーションで監視されているユーザー スレッドで Deferred Procedure Calls (DPC) および Asynchronous Procedure Calls (APC) インストラクションが実行されます。また、PA は同じターゲット スレッドで実行されるため、PA インストールメンテーション モデル実行オーバーヘッドにより全体的なターゲット スレッド実行時間が長くなり、割り込みが発生する機会が増えます。ターゲット スレッド実行中に発生する割り込みの可能性は、スレッドを実行しているマシンのハードウェアおよびソフトウェア、および他のマシン動作により異なります。

Micro Focus Track Record との統合の中止

DevPartner Studio から Micro Focus Track Record へのバグ送信はこのリリースで削除されました。

Compuware Delivery Manager との統合の中止

DevPartner Studio から Compuware Delivery Manager へのメトリクス送信はこのリリースで削除されました。

リリース 9.1.0 の新機能

Compuware からの Quality Solutions 製品の購入

2009 年 6 月 1 日、Micro Focus は Compuware Corporation から Quality Solutions 製品を購入しました。英国、ニューベリーに本拠地を置く Micro Focus は、企業アプリケーションの管理および更新ソリューションを提供します。お客様が受けるサービスを中断せず、両社の製品機能が持つ価値をフルに活用できるよう、Compuware と Micro Focus は引き続き協力してまいります。

サービスおよび製品の質はこの移行中も変わりませんが、いくつか検討されている変更があります。

製品サポートの窓口

製品の最新アップデートおよび情報については、Micro Focus カスタマケア Web サイトである SupportLine をご覧ください。カスタマケアの電話番号はこの最初のリリースでは変更されていませんが、近々変更される可能性もありますので、電話番号および住所に変更がないかどうかを適宜ご確認ください。新しい連絡先情報は、各製品の更新版リリース ノートおよび今後の製品のリリース資料の SupportLine に掲載されています。

インストールパスおよび[スタート]メニューの変更

Quality Solutions 製品のデフォルト インストールパスが **x:\Program Files\Compuware** から **x:\Program Files\Micro Focus** に変更されました。これに応じて、[スタート]メニューのパスも Compuware から Micro Focus に変更されました。インストールパスをカスタマイズした場合、インストール ディレクトリは変更されていません。

Windows 7、Windows Server 2008 R2、Internet Explorer 8 サポート

DevPartner Studio は、Windows 7 および Windows Server 2008 R2 の両方のオペレーティングシステムで動作します。インストール、操作、マニュアル、および Visual Studio や他のシステムとの統合からのすべての既存 DevPartner 製品機能は、これらの Windows オペレーティングシステムでは元の状態のままになります。また DevPartner Studio では、これらのオペレーティングシステム下で Internet Explorer 8 がサポートされます。

コード レビュー バッチ モードでのプロジェクト選択

DevPartner の以前のリリースでは、コマンド ラインから **CRBatch** を使用してコード レビューを実行している場合に、ソリューション中のすべてのプロジェクトがレビューされました。DevPartner リリース 9.1.0 では、特定のプロジェクトを選択してレビューすることができます。そのためには、**CRBatch** コマンドで /1 パラメータの後に、特定のプロジェクトのリストを含む XML ファイルの名前を入力します。DevPartner は、コード レビュー オプション内のソリューションで選択されたプロジェクトに基づいて、XML ファイルを生成します。

コード レビューのためソリューションの一部のみ処理する場合、ソリューション内の個々のプロジェクトを指定してコード レビューを行うことにより、Visual Studio IDE への依存状態から解放されます。また、バッチ モードで選択されたプロジェクトにコード レビューを実行すると、大規模なソリューションでのコード レビューを必要なコード領域のみに合わせて行うこともできます。これによりコード レビューのバッチ実行時間が短縮され、夜間のコード レビュー バッチ処理が効率化されます。

Internet Information Services (IIS) 7.5 サポート

DevPartner Studio は、Microsoft Internet Information Services (IIS) 7.5 でホストされた ASP.NET アプリケーションおよびサービスの分析機能一式を提供します。Windows 7 および Windows Server 2008 R2 などすべての対応 DevPartner Studio オペレーティング システム プラットフォームで、IIS の DevPartner が完全にサポートされています。

コード レビュー バッチ モードでのプロジェクト選択

DevPartner Studio の以前のリリースでは、コマンド ラインから **CRBatch** を使用してコード レビューを実行している場合に、ソリューション中のすべてのプロジェクトがレビューされました。DevPartner Studio では、特定のプロジェクトを選択してレビューすることができます。このためには、**CRBatch** コマンドで /1 パラメータに、指定したプロジェクトのリストが入った XML ファイルの名前を続けて入力します。DevPartner により、コード レビュー オプションでそのソリューションに選択したプロジェクトに基づく XML ファイルが生成されます。

コード レビューのためソリューションの一部のみ処理する場合、ソリューション内に個々のプロジェクトを指定してコード レビューすると、Visual Studio IDE への依存状態から解放されます。また、バッチ モードで選択されたプロジェクトにコード レビューを実行すると、大規模なソリューションで目的のコード領域のみコード レビューするような柔軟性が実現します。これによりコード レビューのバッチ実行が短縮され、夜間のコード レビュー バッチ処理が効率化されます。

Micro Focus Studio Enterprise Edition (EE) COBOL for .NET プロジェクトのトライアル サポート

DevPartner により、Micro Focus Studio EE COBOL for .NET プロジェクト タイプを分析できるようになりました。これには、マネージ COBOL for .NET プロジェクトのメモリ分析、パフォーマンス分析、カバレッジ分析があります。標準的ディスク I/O、ネットワークおよび他の Microsoft 標準 .NET コールが使用されている COBOL for .NET プロジェクトの徹底的なパフォーマンス分析を行うことができます。Micro Focus Studio Enterprise Edition は Visual Studio と同じコンピュータにインストールし、Micro Focus Studio EE COBOL for .NET プロジェクト タイプを分析できるようにする必要があります。

このリリースでは、サポートは試験的な利用に限定されており、コード レビューまたはネイティブ COBOL サポートは提供されていません。この機能に対するフィードバックを提供する DevPartner のお客様は、Micro Focus SupportLine カスタマケア Web サイトから身分証明を行う必要があります。

ネイティブ コードのコンパイル、インストールメント、環境設定、およびコマンドラインからのビルド

1つのコマンドで、プロジェクトまたはソリューションでネイティブ コードをコンパイルしてインストールメントし、コマンドラインからプロジェクトまたはソリューションをビルドすることができます。NMDEVENV コマンドは、DevPartner NMCL コマンドのコード インストールメンテーションおよびコンパイル機能を Visual Studio DEVENV コマンドのビルド機能と結合します。NMDEVENV は Visual Studio DEVENV コマンドに取って代わるものであり、複数のコマンドを実行しなくても、バッチ処理およびコマンドラインからソリューションをインストールメント、コンパイル、およびビルドすることができます。NMDEVENV は、インストールメントおよびビルド中のプロジェクトまたはソリューションに設定された Visual Studio インストールメンテーション オプションを使用するため、コマンド構文にインストールメント オプションを入力する必要がなくなります。

NMCL オプションを指定して NMDEVENV を使用し、インストールメントおよび DEVENV /Build または /Rebuild スイッチを有効にします。プロジェクトまたはソリューションをデバッグせずにビルドするかどうか指定します。Debug を使用しており、複数のデバッグ構成がある場合は Debug を引用し、特定の修飾子を指定して入力する必要があります。たとえば、Debug|Win32)。DEVENV IDE スイッチまたは他のスイッチは不要です。

表記方法

このマニュアルの表記方法は以下のとおりです。

- ◆ スクリーン コマンドやメニュー名などは、太字フォントで囲んで示します。以下に例を示します。

[ツール]メニューから [オプション] を選択します。

- ◆ ファイル名は等幅フォントで示します。以下に例を示します。

『DevPartner Studioユーザー ガイド』マニュアル ([Understanding DevPartner.pdf](#))
では...

- ◆ コンピュータのコマンドとファイル名内の変数 (ユーザーがインストール時に適切な値を指定するもの) は、イタリックの等幅フォントで示します。以下に例を示します。

【移動先】フィールドに「***http://servername/cgi-win/itemview.dll***」と入力します。

補足情報

機能レベルのオンライン ヘルプを利用して、DevPartner Studio の機能や使用方法を参照できます。

また DevPartner のコンポーネントについて、さらに詳しい情報が以下のように提供されています。[スタート]>[すべてのプログラム]>[Micro Focus]>[DevPartner Studio]メニューの InfoCenter オプションである DevPartner Studio の Micro Focus SupportLine Web サイトの製品ページ (<http://supportline.microfocus.com/>) から、Adobe Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルおよび DevPartner Studio リリース ノートを手に入れます。また、DevPartner Studio DVD にも収録されています。

- ◆ DevPartner Studio のライセンスについては、『Distributed License Management ライセンス ガイド』を参照してください。
- ◆ 『DevPartner Studio ユーザー ガイド』は、DevPartner の使用の詳細が記載されています。
- ◆ 『DevPartner Studio クリック リファレンス』および『DPVC クイック リファレンス』は DevPartner Studio および DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite 機能の概要を説明しています。製品をすぐに使用するためのアドバイスも記載されています。
- ◆ 『DevPartner エラー検出ガイド』では、Micro Focus DevPartner エラー検出ソフトウェアの使用方法を理解できるように、コンセプトと手順について説明します。
- ◆ **DevPartner Studio** リリース ノートには、DevPartner Studio の既知の問題とテクニカル ノートが入っています。リリース ノートは、DevPartner Studio のインストール セットアップおよび DevPartner Studio InfoCenter から入手できます。

第1章

DevPartner Studio インストール

この章では、Micro Focus® DevPartner Studio のシステム要件と、インストールについて説明します。

システム要件

DevPartner Studio リリース 10.0.0 (すべてのエディション) に必要な最小構成は、以下のとおりです。

表1-1. ハードウェア

プロセッサ	1.0 GHz Pentium III プロセッサ (32ビット) 以上 2.0 GHz Intel EM64T、またはAMDx64プロセッサ (64ビット) 以上
メモリ	512 MB (32ビット) 1 GB (64ビット)
ディスクの空き容量	2 GB
ディスプレイ	1024x768、16ビットカラー
その他	DVD ドライブ

表1-2. オペレーティング システム

オペレーティング システム	エディション	ブラウザおよび IIS
Windows 7 (32ビットと64ビット)	Professional、Enterprise、 Ultimate	IE 8.0 IIS 7.5
Windows Server 2008 R2 (32ビットと64ビット)	Standard、Enterprise	IE 8.0 IIS 7.5
Windows Server 2008 (SP1またはSP2) (32ビットと64ビット)	Standard、Enterprise	IE 7.0以上 IIS 7.0、7.5
Windows Vista (SP1または SP2) (32ビットと64ビット)	Business、Enterprise、Ultimate	IE 7.0以上 IIS 7.0、7.5
Windows XP (SP2または SP3) (32ビットと64ビット)	Professional、Tablet PC	IE 6.0以上 IIS 6.x、7.0、7.5

表 1-2. オペレーティング システム

オペレーティング システム	エディション	ブラウザおよび IIS
Windows Server 2003 \$P1 または SP2) \$2 ビット) ¥64 ビット)	Standard、Enterprise *Standard と Enterprise のみ	IE 6.0 以上 IIS 6.x、7.0、7.5

サポートされている環境

DevPartner Studio は、以下の環境のリリースバージョンをサポートしています。

メモ： サポートされている言語およびプロジェクト タイプの総合一覧は、『DevPartner ユーザー ガイド』の「付録 B」を参照してください。

表 1-3. Visual Studio との統合

バージョン	エディション	.NET Framework
Visual Studio 2010	Ultimate Edition、Premium Edition、Professional Edition、Test Professional Edition。Ultimate、Premium、および Test Professional の各エディションには Team Foundation Server が含まれています。	.NET Framework 4.0 Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio 2008	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite	.NET Framework 3.5 Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio 2005 (Base と SP1)	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite (64 ビット環境はサポートされていません)	.NET Framework 2.0 (Base と SP1)、3.0* Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio Team Foundation Server	該当なし	該当なし

* 詳細については、[「Microsoft .NET Framework」](#) (3 ページ) を参照してください。

各環境にインストールされる機能の詳細については、「[インストールされる機能](#)」(15 ページ) を参照してください。サポートされているすべての Visual Studio テクノロジーの詳細については、『DevPartner ユーザー ガイド』を参照してください。

Microsoft .NET Framework

DevPartner Studioを使用するには、ホストマシンにMicrosoft .NET Framework 1.1がインストールされている必要があります。Frameworkは、DevPartner Studioに必要なシステムレベルのコードを提供します。インストール中、DevPartner Studioによって、マシンに.NET Framework 1.1がインストールされているかどうかチェックされます。見つからない場合は、インストール中にDevPartner Studioによって追加されます。.NET Framework 1.1は、.NET Framework 2.0、.NET Framework 3.0、.NET Framework 3.5と共存します。

Micro Focus 製品ライセンスの取得

DevPartner Studioは、14日間の評価期間を超えて使用する場合、Micro Focusのライセンスファイルが必要です。ライセンスファイルは、購入したDevPartner StudioのライセンスごとにMicro Focusより提供されます。

Micro Focus TestingおよびASQ製品のライセンスキーを取得するには、以下のホスト情報とともに、Electronic Product Delivery電子メールから送信されたシリアル番号が必要になります。

名前付きユーザー（ロードロックされた）ライセンス：ライセンス供与される各システムからホスト名およびホストID（物理アドレス）を収集します。

コンカレント（浮動）ライセンス：ライセンスマネージャをインストールするシステムからホスト名およびホストID（物理アドレス）を収集します。

ホスト情報の収集

- 1 [スタート]>[すべてのプログラム]>[アクセサリ]>[コマンド プロンプト]をクリックして、Windowsのコマンドプロンプトを開きます。
- 2 コマンドプロンプトで、ipconfig /allと入力し、**[Enter]**キーを押します。
IPconfigによりホスト名および物理アドレスを含む値のリストが返されます。

DevPartner Studio 製品ライセンス キーの取得

- 1 SupportLine カスタマ ケア Web サイト (<http://supportline.microfocus.com/>) にログインします。このサイトに初めてアクセスするユーザーは、SupportLineへの登録が必要です。登録にはご使用の製品のシリアル番号が必要です。
- 2 左側のサイドバーから**[My Incidents（マイ インシデント）]**を選択し、**[Report an Incident（インシデントのレポート）]**を選択します。
- 3 **[Report an Incident（インシデントのレポート）]**ページで、**[Subject（件名）]**テキストボックスにASQ License Requestと入力し、**[Instructions（説明）]**テキストボックスにホスト情報を入力します。手順については「[ホスト情報の収集](#)」（3ページ）を参照してください。
- 4 **[Submit Incident（インシデントの送信）]**をクリックします。

ライセンス要求の送信後に、ライセンス要求が受信され、処理中であることを示す確認の電子メールが送信されます。ライセンス要求に関するお問い合わせには、サポート インシデント番号をご提示ください。

インストールとライセンス管理についての詳しい情報は、『Distributed License Management ライセンスガイド』に記載されています。

Distributed License Management (DLM) ユーティリティを実行し、Micro Focus から受け取ったライセンス ファイルをインストールします。このユーティリティは Windows の [スタート] メニュー から起動します [(すべてのプログラム)>[Compuware]>[Distributed License Management] を選択)。14 日間のトライアル期間は 1 回限りなので注意してください。

DLM を使用する他の Micro Focus 製品を利用して、そのライセンス ファイルと同じフォルダに DevPartner Studio ライセンス ファイルを保存する場合は、ライセンス ファイル間の競合やマージ、置換などが発生しないように、DevPartner Studio ライセンス ファイルの名前を変更することをお勧めします。

DevPartner Studio をインストールしたいが、まだライセンス ファイルが届いていないという場合、DevPartner Studio を代理店からお求めになった場合、または現在 DLM 管理対象 Micro Focus 製品をお持ちで、ライセンス ファイルをマージしたい場合は、SupportLine カスタマケア経由、または ASQ License Management (1-800-632-6265) 宛にお電話のうえ、Product License Management にお問い合わせください。

DevPartner Studio のライセンスについて

すべての DevPartner Studio 製品のソフトウェア ライセンスは、Distributed License Management (DLM) を使って管理されます。DevPartner Studio リリース 10.0.0 には、DLM のバージョン 4.3 が付属しています。ライセンス インストールの詳細については、DevPartner Studio DVD に収録されている『Distributed License Management ライセンス ガイド』を参照してください。

DevPartner Studio ソフトウェアのライセンスについては、以下のことに注意してください。

- ◆ DevPartner Studio は、以下の3種類のパーマネント ライセンスのいずれかで実行できます。
 - ◇ ノードロック ライセンス (シングル シート ライセンス) と呼ばれるローカルにインストールするライセンス (ライセンス サーバーのインストールは必要ありません)
 - ◇ ネットワーク サーバーのライセンス マネージャ データベースに保存されるコンカレント ライセンス
 - ◇ ネットワークに接続されていないコンピュータで実行するポロー (借用) コンカレント ライセンス
- ◆ DevPartner Studio は、14 日間のトライアル ライセンスを使用して実行できます。14 日間のトライアル期間は、いずれかの DevPartner Studio 機能が使用された時点で開始します。

メモ： System Comparison は、DevPartner Studio ライセンスの下で機能します。System Comparison のユーザー インターフェイスを使用すると、その他の DevPartner Studio 機能がインストールされているかどうかにかかわらず、14 日間のトライアル期間が開始します。ただし、System Comparison サービスだけを起動して使用する場合は、ライセンスは使用されないため、14 日間のトライアル期間は開始しません。

- ◆ DevPartner Studio では、コンカレント ライセンスについて、30 分間のアイドル セッション ライセンス タイムアウト ポリシーがサポートされます。コンカレント ライセンスが統合 開発環境 (IDE) でホストされる DevPartner Studio 製品に対して使用されている場合、30 分間にわたって DevPartner Studio 機能が使用されないと (アクティブな分析セッションが存在せず、開いているセッション ファイルも存在しない)、ライセンスは解放され、ライセンス プールに戻されます。

- ◆ リモートマシンからデータ収集を行うには、DevPartner StudioにDevPartnerリモート サーバー ライセンスが必要です（「リモート データ収集用のインストールとライセンス」を参照）。
- ◆ Windows のターミナル サービス接続を経由して DevPartner Studio を実行すると、1 ユーザーにつき 1 つのコンカレント ライセンスが使用されます。ノードロック ライセンスは、ターミナル サービス接続を経由した使用をサポートしません。
- ◆ Windows のリモート デスクトップ接続を経由して DevPartner Studio を実行すると、1 つのコンカレント ライセンスまたはノードロック ライセンスが使用されます。
- ◆ Continuous Integrated Testing ソリューションなど、特定のバンドル製品の一部として DevPartner Studio を購入した場合、バンドル製品に含まれているすべての製品を、1 つのライセンスで同時に使用できます。
- ◆ DevPartner Studio では、利用可能なすべてのライセンスパスを使って、ライセンス情報を検証します。DevPartner Studio の起動が非常に長くかかる場合は、有効なライセンスパスを入力したかどうかを確認してください。

リモート データ収集用のインストールとライセンス

リモート システム上でアプリケーションのコンポーネントを実行すると、リモート マシンからパフォーマンス分析、カバレッジ分析、メモリ分析のデータを収集して、DevPartner Studio がインストールされているユーザー /クライアント マシンでそのデータを表示することができます。リモート データを収集するには、リモート データを収集する各リモート マシンについて、DevPartner リモート サーバー ライセンスを購入するか、コンカレント リモート サーバー ライセンスを1つまたは複数購入します。

DevPartner Studio ファイアウォール アラームのトリガー

DevPartner Studio ソフトウェアは、Visual Studio で実行されている場合でも **DPAnalysis.exe** から実行されている場合でも、リモート マシンからセッション データを収集するために以前にインストールされたサービスに接続します。このサービスは、インターネットのアドレス 0.0.0.0 ポート 18441 でプロセス間通信トラフィックを監視します。一部のファイアウォールでは、このサービス接続によりアラームがトリガーされます。このアドレスを信頼できるアドレスとしてファイアウォールを構成すると、アラームがトリガーされなくなります。ファイアウォールのセキュリティ レベルを最高に設定している場合は、DevPartner Studio がリモート データ収集を実行できないことがあります。この場合はファイアウォールを再設定し、アドレス 0.0.0.0、ポート 18441 でのデータ交換を有効にしてください。

インストールされる機能

DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite

DevPartner Studio のパフォーマンス分析、カバレッジ分析、エラー検出コンポーネントは、DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite でインストールされます。これらのコンポーネントは、Microsoft Visual Studio のサポートされているすべてのリリースで使用できます。

Visual Studio の side-by-side 実行

DevPartner Studio インストール プログラムにより、DevPartner Studio がターゲット コンピュータで見つかった各 Visual Studio のサポートされているリリースの IDS にインストールされます。これにより、サポートされている任意の Visual Studio 環境で同時にコードを開発することができます。

DevPartner Studio のインストール後に Visual Studio のサポートされているリリースをインストールした場合は、いつでも DevPartner Studio インストールを修正できます。DevPartner Studio インストールの修正の詳細については、[第2章「インストールの保守」](#)を参照してください。

インストール

このセクションでは、インストールの準備情報を示した後、DevPartner Studio のインストール手順を説明します。

インストールの準備

DevPartner Studio のインストールを実行する前に、以下のことに注意してください。

- ◆ Visual Studio 2005 または Visual Studio 2008 Team System で DevPartner Studio を使用する場合は、DevPartner Studio をインストールする前に Visual Studio Team Explorer をインストールします。
- ◆ DevPartner Studio を使用するには、Internet Explorer と Microsoft Script Debugger が必要です。インストール中、これらの製品のサポートされているバージョンが検出されない場合は、詳細情報のリンクと共にメッセージが表示されます。

メモ： 以前のバージョンの DevPartner Studio をアップグレードする場合は、そのバージョンの DevPartner Studio をアンインストールする前に、[「DevPartner コード レビューの カスタム ルールとユーザー設定の移行」](#) (18 ページ) を参照してください。

DevPartner Studio をインストールするには

- 1 以前のバージョンの DevPartner Studio を実行している場合は、以前のバージョンの DevPartner をアンインストールし、コンピュータを再起動します (既存のコード レビュー データベースを維持するには、DevPartner Studio をアンインストールする前に [「DevPartner コード レビューの カスタム ルールとユーザー設定の移行」](#) (18 ページ) を参照してください)。
- 2 Windows 管理者 (「admin」) 権限のあるアカウントでログインします。DevPartner Studio をインストールするには、Windows 管理者権限でログインする必要があります。
- 3 ウィルス対策ソフトウェアを無効にします。

DevPartner Studio インストーラで使用するスクリプトによって、ウィルス対策ソフトウェアから警告が出されるおそれがあります。DevPartner Studio のインストール後、ウィルス対策を再度有効にしてください。

メモ： データ実行防止 (DEP) 設定が /NoExecute=Always On として設定され、CPU の Execute Disable Bit が有効になっているシステムでは、DevPartner Studio がインストールされないことがあります。データ実行防止機能の詳細は、[Microsoft サポート 上技術情報の文書番号 875352](#) を参照してください。

インストール後に、この設定を変更して AlwaysOn に戻すと、DevPartner Studio を Visual Studio にロードできなくなります。

- 4 DevPartner Studio DVD を挿入し、インストールを開始して、インストールする製品を選択します。DevPartner Studio Professional Edition をインストールする場合、DevPartner Studio または DevPartner System Comparison をインストールできます。
- 5 [次へ] をクリックします。一連の画面に従って、インストール プロセスを進めます。

メモ： Windows インストーラは、**subst** コマンドを使用して作成された仮想ドライブへのインストールを禁止しています。DevPartner Studio は実際のハード ドライブだけにインストールしてください。

DevPartner Studio インストーラによって、Visual Studio のサポートされているリリースが検出され、デフォルトでは、すべての環境と互換性のあるすべてのコンポーネントがインストールされます。DevPartner Studio コンポーネントがインストールされないようにするには、[コンポーネントの選択] 画面で、インストールしないコンポーネントを選択します。

インストーラで、新しいコード レビュー ルール データベースをインストールするか、既存のルール データベースを使用するかを確認するメッセージが表示されます。このオプションは、ルール データベースを共有している場合に役立ちます。以前のバージョンの DevPartner Studio でビルドしたルール データベースを使用する場合は、「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」 (18 ページ) を参照してください。

- 6 DevPartner Studio Professional Edition のインストール後、DevPartner System Comparison のインストールを促すメッセージが表示されます。これにより、コンピュータ システム間の相違、または同じコンピュータ上の別の構成間の相違を特定できます。

デフォルトで、System Comparison のインストールが開始されます。インストールの必要がない場合は、キャンセルできます。

使用しているシステムに System Comparison のアップデート バージョンが存在する場合は、インストールは行われません。

DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング

DevPartner Studio では、DevPartner Studio インストールの詳細情報として Microsoft インストーラ (MSI) のログをキャプチャします。そのログを調べれば、インストールの問題を診断できます。または、Micro Focus カスタマ ケア からサポートを受ける場合に、このログをカスタマ サポートのエンジニアに提供できます。

DevPartner Studio のインストールに応じて、このファイルは **DPSxxinstall.log**、または **DPVCxxinstall.log** (xx はリリース番号) という名前で、以下の場所に配置されます。

Windows XP システムおよび Windows Server 2003 システムの場合：

C:¥Documents and Settings¥<user>¥Local Settings¥Temp¥

その他の対応オペレーティング システムの場合：

C:¥Users¥<user>¥AppData¥Local¥Temp¥

MSIログのほか、以下の情報を準備してください。

- ◆ インストールしているソフトウェアとそのバージョン
- ◆ オペレーティング システムと Service Pack
- ◆ インストールされている DevPartner Studio ソフトウェアの旧バージョン
- ◆ 前のバージョンの削除に問題があったかどうか
- ◆ MSIログを添付ファイルとして送信するかどうか
- ◆ インストール中に表示されたエラー メッセージの内容
- ◆ 完全な管理者権限のあるアカウントからインストールしたかどうか
- ◆ インストールをローカルまたはリモートのどちらで実行したか。リモートで実行した場合は、使用したソフトウェア
- ◆ インストール前にウイルス対策ソフトウェアを無効にしたかどうか
- ◆ DEP 設定が /NoExecute=OptIn? と構成されているかどうか

DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行

以前に DevPartner Studio をインストールしており、コード レビュー ルール データベースやプリファレンス データベースをカスタマイズしている場合、これらのデータベース ファイルを DevPartner Studio の現在のリリースに移行する必要があります。これにより、アップグレード中に設定が失われることを防止できます。

DevPartner Studio には、この移行処理を自動化する以下の2つのユーティリティがあります。

- ◆ **crupdaterules.exe** : 以前のリリースのルールを現在のリリースのルール データベースに移行します。
- ◆ **crupdateprefs.exe** : 以前のリリースのユーザー設定を現在のリリースのプリファレンス データベースに移行します。

これらのユーティリティを使用すると、カスタマイズしたルールとユーザー設定が新しいルール データベースとプリファレンス データベースにそれぞれ移行されます。

移行の準備

- 1 DevPartner Studio をアンインストールする前に、安全のため、既存の **CRRules.dpmdb** ファイルと **CRPrefs.dpmdb** ファイルをほかの場所にコピーします。

デフォルトでは、以前のバージョンの DevPartner Studio で作成されたデータベース ファイルは **¥Program Files¥Micro Focus¥DevPartner Studio¥CodeReview** に入っています。

メモ： 64ビットバージョンの Windows では、DevPartner Studio は以下の場所にインストールされます。**¥Program Files (x86)¥Micro Focus¥DevPartner Studio¥CodeReview**

The DevPartner Studio のアンインストール プロセスにより、ルール データベースとプリファレンス データベースのバックアップ コピーが作成されます。データベースのバックアップ コピーを作成せずにすでに DevPartner Studio をアンインストールしている場合は、自動的に作成されたバックアップ ファイルを使用できます。このファイルは、DevPartner Studio のインストール フォルダ **¥Code Review¥Backup** に格納されています。

- 2 DevPartner Studio の前バージョンをアンインストールします。

- 3 DevPartner Studio リリース 10.0.0 をインストールします。新しいルール データベースを作成するか、既存のルール データベースを使用するかを尋ねるメッセージがインストール画面に表示されたら、新しいルール データベースを作成するオプションを選択します。これにより、インストール後は新しいデータベースが更新されます。

新しいデータベースは、以下の場所に配置されます。

Windows XP システムおよび Windows Server 2003 システムの場合：

C:¥Documents and Settings¥All Users¥Shared Documents¥Code Review

Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 システムの場合：

C:¥Users¥Public¥Public Documents¥Code Review

- 4 DevPartner Studio リリース 10.0.0 のインストール時に作成された新しい **CRRules.dpmdb** ファイルと **CRPrefs.dpmdb** ファイルを、手順 1 で使用した以外の場所にコピーします。これにより、元のルール ファイルやプリファレンス データベース ファイルの上書きを避けることができます。

「[ルール データベースの移行](#)」または「[プリファレンス データベースの移行](#)」に進み、目的の移行を実行します。

ルール データベースの移行

- 1 コンソール ウィンドウから DOS セッションを開始します。
- 2 DOS プロンプトで、DevPartner Studio をインストールしたフォルダに移動します。デフォルトでは、DevPartner Studio は **¥Program Files¥Micro Focus¥DevPartner Studio¥CodeReview** にインストールされます。このフォルダには、移行ユーティリティも含まれています。

64 ビットバージョンの Windows では、DevPartner Studio は以下の場所にインストールされます。**¥Program Files (x86)¥Micro Focus¥DevPartner Studio¥CodeReview**

- 3 このフォルダから、**crupdaterules** というコマンドを入力し、続けてルール データベースの以前のバージョンへのパスを指定します。以下に例を示します。

```
crupdaterules C:¥MyOldRulesDb¥CRRules.dpmdb
```

使用するコマンド文字列は、移行中のルール データベース ファイルの場所を指している必要があります。また、コマンドは、1 行に入力する必要があります。

既存のルールが、新しい DevPartner Studio コード レビュー ルール データベースに移行されます。

プリファレンス データベースの移行

- 1 コンソール ウィンドウから DOS セッションを開始します。
- 2 DOS プロンプトで、DevPartner Studio をインストールしたフォルダに移動します。デフォルトでは、DevPartner Studio は **¥Program Files¥Micro Focus¥DevPartner Studio¥CodeReview** にインストールされます。このフォルダには、移行ユーティリティも含まれています。

64 ビットバージョンの Windows では、DevPartner Studio は以下の場所にインストールされます。**¥Program Files (x86)¥Micro Focus¥DevPartner Studio¥CodeReview**

- 3 このフォルダから、`crupdateprefs` というコマンドを入力し、続けてプリファレンスデータベースの以前のバージョンへのパスを指定します。以下に例を示します。

```
crupdateprefs " C:¥MyOldPrefsDb¥CRPrefs.dpmdb"
```

使用するコマンド文字列は、移行するプリファレンス データベース ファイルの場所を指している必要があります。

既存のプリファレンスが、新しいDevPartner Studio コード レビュー プリファレンス データベースに移行されます。

第2章

インストールの保守

保守モードにアクセスする

必須：このセットアッププログラムを実行する前に、必須ではないWindowsプログラムをすべて終了することをお勧めします。一部のWindowsプログラムは、インストールプロセスに干渉する可能性があります。

Windowsのコントロールパネルから保守モードにアクセスするには、以下の手順を実行します。

- 1 Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、続けて[すべてのプログラム]>[Micro Focus]>[DevPartner Studio]>[インストールの変更]を選択します。DevPartner Studioインストールウィザードが表示されます。

メモ： **DevPartner Studio** インストールウィザードは、Windowsの[スタート]ボタンからアクセスすることをお勧めします。

- 2 [次へ]をクリックします。[プログラムの保守]ページが表示されます。

ウィザードのこのページから、[変更]、[修復]、[削除]の3種類の保守モードオプションにアクセスできます。それぞれのオプションの詳細については、この章の該当するセクションを参照してください。

インストールを変更する

製品をアンインストールして再インストールする代わりに、オプションのコンポーネントを追加または削除して、DevPartner Studioのインストールを変更できます。

オプションのコンポーネントを使用して製品を変更する

- 1 この章の始めに説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 [変更]オプションを選択し、[次へ]をクリックします。[コンポーネントの選択]ページが表示されます。コンポーネントの追加や削除はこのページで行います。
- 3 各機能の隣にあるアイコンをクリックし、以下のいずれかの操作を行うために適したオプションを選択します。

ヒント：個々の機能を選択すると、その機能に関する説明が[コンポーネントの選択]ページに表示されます。また、このページの[ヘルプ]ボタンをクリックすると、さらに詳しい情報が表示されます。

- ◇ その機能をローカルハードドライブにインストールする。
- ◇ その機能と、サブ機能のすべてをローカルハードドライブにインストールする。
- ◇ インストール時にその機能を選択できないようにする。このオプションを選択すると、以前にインストールされたコンポーネントはすべて削除されます。

- 4 [次へ]をクリックします。「プログラムを変更する準備ができました」というページが表示されます。
- 5 [インストール]をクリックします。インストールが開始されます。セットアップ プログラムにより、適切なコンポーネントが追加、または削除されます。

変更後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 6 [完了]をクリックして、変更を終了します。

インストールを修復する

DevPartner Studioのインストールが破損して、修復が必要になる場合があります。その原因は、不注意による削除やプログラムの破損が考えられます。DevPartner Studioのインストールを修復するには、以下の手順を実行します。

- 1 この章の始めの「保守モードにアクセスする」で説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 [修復]オプションを選択し、[次へ]をクリックします。「プログラムを修復する準備ができました」というページが表示されます。
- 3 [インストール]をクリックします。インストールが開始されます。セットアップ プログラムにより、適切なコンポーネントが追加、または削除されます。
- 4 修復後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 5 [完了]をクリックして、保守を終了します。

インストールを削除する

コンピュータから DevPartner Studio のインストールを削除する場合は、以下の手順を実行します。

- 1 この章の始めに説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 [削除]オプションを選択します。[次へ]をクリックします。[プログラムの削除]ページが表示されます。
- 3 DevPartner コード レビュー ルール データベースのバックアップ コピーを保存するには、このチェック ボックスをオンにします。
- 4 [削除]をクリックします。セットアップ プログラムにより、DevPartner Studio のインストールが削除されます。
- 5 アンインストール後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 6 [完了]をクリックして、保守を終了します。

索引

C

crupdateprefs 18, 20
crupdaterules 18

D

DEP 設定 16
DevPartner
 アップグレード 16
 カスタム ユーザー設定の移行 19
 カスタム ルールの移行 19

S

System Comparison ユーティリティ 17

V

Visual Studio 2005、DevPartner の後にインストール 16

あ

アクセス方法
 保守 21

い

以前の DevPartner バージョン 16
インストール
 製品インストールの修復 22
 製品コンポーネントの変更 21
インストールの保守 21

か

カスタマ ケア 14
管理者権限 16

こ

コード レビューのユーザー設定の移行 19
コード レビュー ルールの移行 19

さ

削除
 保守 22
サポート 14

し

システム要件 11
修復
 保守 22

す

スクリプト、ウィルス対策ソフトウェアによる介入 16

て

データ実行防止の設定 16

と

トライアル ライセンス 14

索引

へ

変更

保守 21

ほ

保守

アクセス方法 21

削除 22

修復 22

変更 21

よ

要件 11

ら

ライセンス

タイムアウト ポリシー 14

トライアル 14

ライセンスのタイムアウト 14

ライセンス ファイル

インストール 13

テクニカル サポート 14